



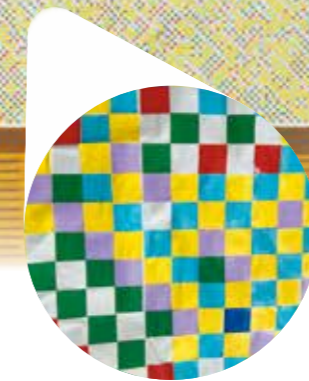
●編集・発行/迫桜高等学校PTA広報委員会

第33号



迫桜祭モザイク画

夢はばたけ未来へ!!



一枚一枚貼りました

# 研修旅行

7月22日(土)

## PTA研修旅行に参加して

常任・企画委員 川田 清太郎

梅雨のまだ明けきらぬ7月22日(土)、PTA研修旅行で山形に行ってきました。参加者は校長先生はじめ先生方7人、保護者は11名でした。前日の天気予報で山形県は60%の降水確率でしたが、予報が良い方に外れて内陸部らしい蒸し暑い日となりました。

最初に訪ねた東北文教大学では、学長自ら大学のPRをしていただきました。オープンキャンパスを翌日に控えて、職員に構内を案内され、熱心に説明していただきました。

その後、ラスクで有名なシベールファクトリーメゾンに立ち寄り、昼食は寒河江の和食店で、見た目も味も素晴らしい食事に舌鼓を打ちました。

研修のおしめいは河北町の紅花資料館に行きました。ここでは紅花染め体験をしました。最後に紅花資料館の前で、参加者それぞれが世界に一つだけの作品を手に全員の写真撮影をしました。会員相互の親睦を深められ有意義な研修となりました。



# 前期のPTA活動

# 仙北支部総会

6月16日(金)

## 県高P連仙北支部総会に参加して

副会長 小澤 大助

6月16日、登米市迫町のホテルニューグランヴィアを会場に、県高P連仙北支部総会が栗原、登米管内にある公立高校、計8校のPTA役員や事務局の先生方を参集し、盛大に開催されました。我が迫桜高校PTAからは佐藤会長をはじめ事務局の先生を含め6名で参加しました。総会では、主催者である築館高校前PTA会長の白鳥光治さんの開会挨拶の後に登米高校PTA会長の菅野忠美さんが議長を務め総会の議事に入りました。

協議事項として28年度の事業報告、決算報告、29年度の事業計画案、予算案、役員改選案、今後の事務局当番校のローテーションの確認等、6つの議案が上程されました。いずれの議案も全会一致で採択、承認されスムーズな議事進行の元で円滑に総会を終え、無事に29年度新役員体制に移行しました。新たな支部長として登米高校の菅野会長が就き、就任の挨拶では「活発な単P活動が仙北支部、更には県高P連の活性化につながるの各々の高校でのPTA活動をより一層盛り上げていきましょう！」との呼びかけがありました。

総会後には研究協議が開催され、28年度に県高P連で行われた健全育成活動、進路対策活動、調査広報活動の活動内容が報告され県高P連の委員会活動の一端を垣間見る事が出来ました。

報告の後に仙北支部8校で独自に行われている委員会活動について参加者同士の質疑応答があり、東北地区広報誌コンクールで優秀賞の栄誉に輝いた迫桜高校PTA広報委員会の活動内容や広報誌作製の作業手順などに質問がおよび、広報委員でもある千田PTA副会長が代表して広報誌作製の難しい点や配慮している点など実例を挙げお答えしました。

その後の、教育懇談会では軽食をいただきながら参加していた各校の役員や事務局の先生方の自己紹介があったり、各校PTA活動の取り組みを紹介し合ったり、和やかな雰囲気の中での交流を楽しみました。初めての参加でしたがこれからのPTA活動に大いに活用出来る様々なお話を聴けて大変貴重な一日となりました。

# 東北大会

7月7日(金)

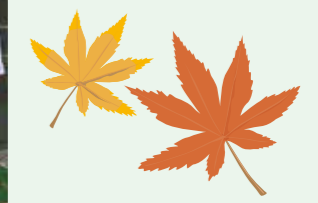
## 東北地区高P連盛岡大会に参加して

監事 佐藤 みゆき

朝から青空が眩しく暑く感じた7月7日(金)「描けドリームアップ」～世界の架け橋を郷土から～をテーマとして盛岡市民文化ホールへ1,535名の方々が東北6県より参加された盛岡大会。高校生による発表で私達を出迎えてくれました。中でも花巻農業高の鹿踊りの演舞に迫力が伝わり、とても魅了されました。

研究協議では「郷土から世界へ・現代から未来へ羽ばたく子どもたちを応援するPTA」をテーマに各県代表校の発表がありました。各校のPTAから子への思いや願いが強く伝わり、私たち大人が自立支援をすることが大切なのだと思えました。その中でも青森県弘前東高の活動には、とても興味深く笑いのあった発表でした。内容は、少しでも社会人としての心構えを伝えたいという思いから「卒業生に送る寸劇」を13年前から同窓会・後援会PTAが劇団を作り卒業式当日に披露してきたそうです。寸劇を観ている卒業生の笑顔も印象的でした。年々回を重ねるごとに出演者同士のつながりも強固になり、学校全体で子どもへ大切なものを教え、この寸劇の他にもPTAの活動も活発になっているそうです。

私たち迫桜では何が出来るだろうか？子どもにはどう映っているのだろうか？子どもへの手助けは、未来へ向き合うための大切なことで、次世代を担う人間づくりへ繋げていける様に努めたいと思いました。



# 全国大会

8月24日(木)・25日(金)

## 全国高P連に参加して

副会長 千田 三由紀

炎天の下、第67回全国高等学校PTA連合会大会が『有徳の人』づくり～未来のために行動する「一人」を育てよう～をテーマに静岡県小笠山総合運動公園エコパをメイン会場に開催され、全国から9,000人以上が集まり盛大に行われました。

1日目の基調講演では、静岡大学名誉教授の小和田哲男氏を迎え、「戦国時代に学ぶ子育てと人づくり」と題し、先人たちの生き様から未来のヒントをつかむことが大事。「弱肉強食」勝ち組の武将の残した言葉を紹介されました。

午後の分科会では、「ネットトラブルの予防と対策」をテーマに講演があり、正しい情報・知性を学び、身につける心構えが必要だと思いました。また、わかっちゃいるけどやめられないスマホをどうしたらよいか？の問題点では、スマホから注意をそらす。スマホを見えないようにすることが効果的だそうです。これは実践あるのみだと思いました。

2日目は、俳優の箕利夫氏が「これがオレの生きざまだ！」と、元気いっぱいのトークショーで盛り上がりました。

閉会后、会場の外で地元高校生の郷土芸能でお見送りしていただき、とても感動いたしました。充実した2日間でした。



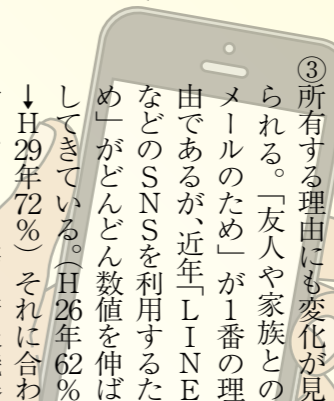
# 「スマホは必要？」



生徒指導部長 目黒 幸治

ものである。

毎年春に、「生徒指導の諸調査」というものが県から送られてきて、全生徒にアンケートを取り、集計して報告することになっている。この報告を昨年からまとめているが、昨年も今年も、「果たしてスマホは今の生徒たちにとって必要なものなのだろうか？」という疑問を抱かざるを得ない。



質問事項等は毎年少しずつ変わっていくのだが、ここ5年くらいを比較すると、  
①H24年の集計では携帯電話を持つもののうち、スマホを持つものは43%であったにも関わらず、H29年は100%となっている。スマホの急激な普及に驚くばかりである。  
②持ち始めた時期は、H26年が中学2年までで33%であるのに対し、H29年は41%

③所有する理由にも変化が見られる。「友人や家族とのメールのため」が1番の理由であるが、近年LINEなどのSNSを利用するため「がほとんど」数値を伸ばしてきている。(H26年62% ↓H29年72%) それに合わせて、スマホ等の情報機器を通じて嫌な思いをしたり、いじめを見たり聞いたりした事のある生徒も増えている。(H26年17% ↓H29年23%) 単純に連絡を取り合うだけの機器では無くなったということだろう。  
④1日の使用時間であるが、「4時間以上」と答えている生徒が、H24年から変わらず25%前後(4人に1人)いるというのは困った

⑤そして、1番の問題だと考えるのは、次の「スマホ(SNS)の使用で減少した時間は何？」という質問の答えである。H26年の上位4つ(複数回答可)が ①勉強(35%) ②テレビ(30%) ③睡眠(25%) ④読書(17%)で、H29年が①テレビ(38%) ②睡眠(33%) ③勉強(32%) ④読書(27%)となっているように、ほとんど変わっていない。つまり少なくとも**勉強**は、テレビは置いておいたとしても、勉強と睡眠と読書をする時間を削ってスマホを触っているということになる。勉強時間を削ったことが成績悪化につながり、睡眠時間を削ったことが体調不良につながり、その結果面白い動画を見つけたとかに一喜一憂し、トラブルに巻き込まれてしまうことになっている。また、スマホ使用によって減少した時間の中で



## 「迫桜」に寄せて

校長 牛 来 生 人

PTA会員の皆様には日頃より本校教育活動に対してご理解とご協力、ご支援をいただいておりますこと、誠にありがとうございます。

日々、生徒諸君の元気な姿が学校の至る所で見られます。様々な個性を持ち、またそれぞれの悩みや課題を抱え、それら乗り越え、自らを高めようとする生徒達を支援していくことが私たちの使命であり、仕事の励みともなっております。

本校生は本当に素晴らしい資質・可能性を持っています。学校内外で生徒諸君と交わす何気ない言葉、その物腰から、人柄の良さ、素直さを感じさせてくれます。部活動に取り組む真剣さ、熱心さは好感が持てます。大会会場で見せる礼儀正しさは誇らしく思います。様々なボランティア活動にも数多くの生徒が主体的に参加するなど、感心させられます。

何人かの生徒と面談した際、「迫桜高校を選んだ理由は？」との問いかけに、「自分で時間割を選ぶことが出来る。自分で科目選択をすることで、将来の方向性を探していきたい。」と、多くの諸君が答えてくれました。中学校までの自分からの飛躍、これから自分が社会にどんな貢献が出来るのか、そのためにはどのような道があるのかを真摯に考えたい、

という姿勢を誠実に語ってくれる諸君が多く、うれしく思いました。

問題を真面目に考えている。自分にもきつかけがないと、最初の一步を踏み出すことに躊躇してしまふ、素朴だけれども自分に少し自信を持っていない、そんな人柄を感じずにはおられません。授業内容をより深め、中学校や大学、企業や地域との連携の場を提供し、学んだことを表現できる経験を通して、裏付けある自信を身につけて欲しい、そのための手助けを学校は行っていきたいと、学校運営に当たり、私たちは考えております。

日常的な高校生活では、荷物の整理が不十分である、スマホの使い方に未熟なところが見られる、授業を受講する態度に改善の必要がある者もいるなど、私たちが指導すべき事柄は少なからずあります。せっかくなので善行、人間性の良さがちよつとしたことから誤解され否定されることがないように、心を配って参りたいと思ひます。

すべての生徒にとって、家庭が心の支えです。私たちも学校という場を通して、生徒諸君の成長に寄与できるよう協力して参ります。今後もよろしくお願ひ申し上げます。

も、最近増えてきているのが、「友人との会話」(5% ↓9%) や「家族との会話」(7% ↓11%) である。これは、嘆かわしい限りであり、その上「自分はコミュニケーション能力が足りない」と思っている生徒が多くいることを考えても、「スマホ=悪」ではないかとさえ思ってしまう。

確かに、使い方を間違えず、節度を持って使用することが出来れば、この上なく便利なものだと思う。ただ、「使い方を間違えず、節度を持って使用すれば」である。スマホの画面を見ながら友人と会話をしている姿や、始業

## 迫桜生のスマホに関するアンケート集計結果

質問1 スマートフォン等を所有している生徒数

項目	男子	女子	合計
①スマホのみ所有	214	294	508
②携帯電話のみ所有	0	0	0
③①と②いずれも所有	9	6	15

質問2 スマートフォン等を所有した時期

時期	生徒数	割合
小5以前	22	4%
小6	27	5%
中1	75	14%
中2	89	17%
中3	152	29%
高校入学後	158	30%

質問3 スマートフォン等を所有する理由(上位5項目)

項目	男子	女子	割合
①家族との通話やメールのため	204	283	91%
②友人との通話やメールのため	171	249	79%
③LINEなどのSNSを利用するため	146	232	71%
④緊急時の連絡用	146	207	66%
⑤インターネットに接続するため	104	153	48%

回答者データ

生徒数	在籍	回答	回答率
1年	男子 88	85	96%
	女子 112	108	96%
2年	男子 86	79	91%
	女子 101	99	98%
3年	男子 70	68	97%
	女子 98	96	97%
男子計	244	232	
女子計	311	303	96%
合計	555	535	

質問4 1ヶ月の平均的な使用料金

項目	男子	女子	合計
①~3,000円未満	11	13	24
②3,000円~6,000円未満	73	75	148
③6,000円~9,000円未満	60	91	151
④9,000円~12,000円未満	59	96	155
⑤12,000円~15,000円未満	8	18	26
⑥15,000円~18,000円未満	1	1	2
⑦18,000円~21,000円未満	5	3	8
⑧21,000円以上	6	3	9

質問5 1ヶ月の平均的な使用料金

項目	男子	女子	合計
①ほぼ使用しない	2	0	2
②30分未満	2	2	4
③30分~1時間未満	12	12	24
④1時間から2時間未満	45	58	103
⑤2時間から3時間未満	64	87	151
⑥3時間から4時間未満	42	68	110
⑦4時間から5時間未満	22	34	56
⑧5時間以上	34	39	73

質問6 スマートフォン等の情報端末を利用して以下の被害に遭った生徒

項目	男子	女子	合計
①嫌な思い・いじめ	10	23	33
②いじめの見聞	24	40	64
③被害	7	17	24

表中の①③で生徒自身が実際に体験した被害のうち特徴的なものを挙げなさい  
・悪口をかきこまれた ・写真を拡散された ・誹謗中傷された

質問7 フィルタリングを知っている生徒・利用している生徒数

項目	男子	女子	合計
①フィルタリングを知っている	195	227	422
②フィルタリングを利用している	129	163	292

フィルタリング使用率 55%

質問8 SNS等の利用に伴う危険性(上位5項目を認識している生徒数)

項目	合計
①金銭トラブル	432
②個人情報の流出や悪用	409
③いじめ問題	402
④ネットワークウイルスへの感染	368
⑤炎上	363

(複数回答)

(複数回答)



### 地域と協力し健全育成を

委員長 渡 邊 弘

健全育成委員会では「生徒の健全育成」を目的にPTAはもとより、地域の皆様の支援を受けながら一体となった活動を目指しております。7月21日には学警連市内合同巡回が行われ、警察署、教職員および保護者が合同で市内巡回を行いました。この活動は地域一斉に行われ、若柳地区以外にも築館や佐沼などでも商業施設を中心に巡回が実施されました。PTAと警察の方々、そして、巡回先である地域の皆様の意見や情報を頂き、色々な情報交換ができたと思います。

今後の活動については、10月上旬に迫桜高校正門付近において「あいさつ運動」を、12月に第2回目の学警連市内合同巡回を、1月に薬物乱用防止教室を予定いたしております。私たちの活動は保護者の皆様はもちろん、教職員、警察や地域の方々の協力があってこそその活動だと思っております。皆様のご協力のもと、子供たちを守る社会環境を作っていきたいと考えておりますのでご協力を宜しくお願い致します。

- 委員
- |             |             |
|-------------|-------------|
| 菅原 洋一 (二一四) | 鹿志村友理 (二一四) |
| 佐藤 和也 (二一四) | 加藤 雅恵 (二一四) |
| 小野寺孝司 (二一四) | 渡邊 弘 (二一四)  |
| 小野寺美智 (二一四) | 佐々木信子 (二一四) |
| 鈴木育恵 (二一五)  | 千葉 晃 (二一四)  |
| 鈴木和香子 (二一五) | 石川 征克 (三一四) |
| 千葉 伸明 (二一三) | 目黒 幸治 (三一四) |
| 佐々木 幹 (二一三) | 高橋 朋 (三一四)  |

## 健全育成委員会



### 合言葉は「P・T・A！」

委員長 阿 部 美由紀

企画委員会は会員間の交流を深める事業が中心となります。今年度も新メンバーでスタートいたしました。「進路委員会と合同の研修旅行」では、開学50周年を迎えた短期大学を併設する東北文教大学の見学では、少人数制の教育システムを見学させて頂きました。(株)シベールでは工場見学を、紅花資料館では手を真っ赤に染めながら、貴重な紅花染めの体験でハンカチを染めました。

「迫桜祭のバザー」では会員の皆さんからお預かりした提供品を安価で販売いたしました。出品のご協力感謝いたします。収益金は在校生のため有意義に活用させていただきます。

「進路ガイダンス」は保護者にも進路に関心を持っていただくための活動です。高校生ともなると親から離れ世界が広がる子供たちに負けず、私たちが活動の輪を広げていきたいものです。合言葉はPTA「パット・楽しく・アクティブに！」

- 委員
- |             |             |
|-------------|-------------|
| 梅本真寿美 (二一四) | 佐藤 純子 (三一四) |
| 川田清太郎 (二一四) | 阿部美由紀 (三一五) |
| 千田 義高 (二一四) | 加賀谷 亮 (三一四) |
| 佐々木哲也 (二一四) | 千葉 亮 (三一四)  |
| 鈴木 亜矢 (二一五) | 高橋 朋 (三一四)  |
| 菅原 由美 (二一五) |             |

## 企画委員会

# 専門委員会の活動

### 迫桜生の明るい未来に今できること

委員長 鈴木 稔 也

今年の夏休みは天候がはっきりしない日々が続き、若柳の花火当日も雨の中行われましたがPTA会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。

さて、進路委員会では7月22日(土)に企画委員会と合同でPTA会員研修会を実施して参りました。研修先は、山形方面の東北文教大学と河北町紅花資料館でした。私立の大学ということで設備が整っていてお子様の進路は様々ですが、進学をされるお子様を持つ会員の皆様にとっては大変貴重な体験になられたと思います。紅花資料館では、平安時代から高貴で高い官位を表す色とされた紅花で世界に一つだけのシルクハンカチの絞り染めを体験して参りました。

次に、10月21日(土)はPTA親子進路ガイダンスが予定されております。土曜日ということで多用中の事とは存じますが、このガイダンスに参加され、親子共に大切な進路についてはなせる機会にして頂きますように、多数の御参加を心からお待ちしております。どうぞよろしくお願い致します。

- 委員
- |             |             |
|-------------|-------------|
| 菊地 恵 (二一四)  | 山本 和美 (二一四) |
| 相馬真由美 (二一四) | 高橋 朱美 (三一四) |
| 小澤 大助 (二一四) | 鈴木 稔也 (三一四) |
| 高橋 紀子 (二一四) | 佐藤 彩 (三一四)  |
| 佐藤みゆき (二一四) | 石川 勝 (三一四)  |
| 佐々木洋子 (二一四) | 今野 英樹 (三一四) |
| 高橋 康則 (二一四) |             |

## 進路委員会

### 迫桜の良さを伝えたい

委員長 鈴木 弥 生

広報委員会では、「楽しく活動する」を活動方針のもとに一年間活動して行く事にしました。誰が見ても分りやすく、楽しめる広報誌にして行きたいと思っております。

6月30日に発行の号外を始め、9月30日発行の33号、3月1日発行の34号を予定しております。33号では迫桜祭や、高校総体並びにPTA活動等の様子を皆様にお届けしていきたいと思っております。また、スマートフォンでの使い方についての特集を行いますので、ご家庭で使用方法、使用時間等、話題にして頂けたらと思います。

今後ともPTA会員の皆様、地域の皆様や先生等の協力のもと、広報「迫桜」を発行して行きたいと思っておりますので、一年間よろしくお願い致します。



- 委員
- |             |              |
|-------------|--------------|
| 伊藤 正美 (二一四) | 柳澤 文 (三一四)   |
| 鈴木 弥生 (二一四) | 小野寺深雪 (三一四)  |
| 三浦 文恵 (二一四) | 菅原 学 (三一四)   |
| 佐藤 奈恵 (二一四) | 藤 圭一 (二一四)   |
| 佐藤 章子 (二一四) | 佐々木由美 (三一四)  |
| 阿部まゆみ (二一五) | 斎藤 陽介 (三一四)  |
| 菊地 美穂 (三一四) | 堺 友香 (三一四)   |
| 千田三由紀 (三一四) | 千葉 健太郎 (三一四) |

## 広報委員会

# Specialty committee

# スクールライフ

# HAKUOU 前期の歩み



球技大会



授業風景



入学式



職場体験



迫桜祭



総体



## 迫桜祭

### PTAバザー

8月26日(土) 校内発表  
8月27日(日) 一般公開

今年はいじりきも  
ありました。



売上総額  
21,320円になりました。  
球技大会・運動会用のトロフィーを  
購入させていただきます。  
ご協力ありがとうございました!!



# 特集

# 迫桜を知る!!

## 福祉教養系列

### ■どんな生徒が選択しているの？

- ・おじいちゃんおばあちゃんが大好きな人
- ・将来、人の役に立つ仕事がしたい人
- ・手に職をつけたり、地域を支えたい人 などなど

### ■どんなことを学べるの？

専門科目表 決められた科目を履修・修得することで介護福祉士国家試験の受験資格が得られます。

年	座学	実習	教科名	群	単位	内容
1	座学	実習	社会福祉基礎①	1年次選択	2	社会福祉って何だろう。人間の尊厳について理解し、社会福祉の理念や意義について、ともに考え、学びます。
			社会福祉基礎②	I群	2	日本や外国における社会福祉思想の流れを学び、生活を支える社会保障制度について理解を深めます。
2	座学	実習	介護福祉基礎①②	VI群 VII群	5	介護の意義と役割を理解し、介護を適切に行うために必要な基礎的な知識と技術を学びます。
			こころとからだの理解①	II群	4	人体の構造と機能、心のしくみを学びます。また、心身の状況に合わせた介護ができるよう、基礎的な知識を習得します。
			生活支援技術①	III群α	2	身じたくや食事、移動、排泄、入浴や清潔保持など生活をする上で、不自由さを抱える方の具体的な支援方法を学びます。
			介護過程①	III群β	2	根拠に基づく介護が行えるよう、観察力、アセスメント力、計画力、実践力、評価をする力を学びます。
			介護実習①②	IV群 V群α	4	高齢者施設や障害者施設にて介護実習を行います。異なる年代の方とのコミュニケーション、基礎的な介護技術の習得、レクリエーションの企画、運営を行います。
	フレックス		2	介護実習のための事前準備やオリエンテーション、理解を深めるための自己学習、生活支援技術の練習を行います。		
3	座学	実習	コミュニケーション技術	V群α	2	コミュニケーションの意義と役割を学び、基本技術を習得します。点字や手話など利用者に応じたコミュニケーションの方法を学びます。
			介護過程②	VI群	2	事例に基づく具体的な介護過程について演習を行います。
			こころとからだの理解②	IV群	4	人間の発達と老化について学び、高齢者に多い病気を勉強します。また、認知症の特徴や障害を引き起こす病気についても学びます。
			生活支援技術②③④	I群 IX群 V群β	8	身体障害や知的障害、精神障害を抱える方が自立して生活できるよう具体的な援助方法について学びます。
	介護総合演習	VII群	3	介護実習の事前・事後学習や介護実習にて行った介護過程について、事例研究としてまとめ、発表します。		
	介護実習③④	VIII群 X群	7	介護計画を立案し、施設での中間カンファレンスを経て実践・評価をし、利用者の個々のニーズに沿った介護について思考を深めます。		
フレックス		1	介護福祉士国家試験を目指した学習を行います。			

福祉教養系列は福祉系高等学校として、福祉の心の育成と豊かな人間形成を基盤とした地域社会福祉に貢献できる人材育成を目指しています。平成28年度は生徒6名が介護福祉士国家試験を受験しており、これまでに172名の卒業生が介護福祉士や訪問介護員として地域で活躍しています。福祉についての広い視野を育て、自分たちにできることは何なのかを考え、工夫し、実践できる生徒たちを育てられるよう人材育成に取り組んでいきたいと思ひます。

### 介護実習について

2年次より社会福祉施設にて実習を行います。夏休み中に行う8日間の居宅介護事業所での実習は、自分と異なる世代の方々とのコミュニケーションを中心に学び、また、食事・排泄・入浴の介護の実際について理解します。次に9月から11月にかけて、週1回で8日間の実習を行います。施設に入所している方々の生活の特徴を理解し、基本的な介護技術について経験します。続いて、3月に同施設にて8日間の実習を行います。今まで経験できなかった介護技術を積極的に経験することはもちろんですが、主体的な活動としてレクリエーションを企画し実施します。

入所者の特徴を捉え、目的を明確にしたレクリエーションの企画と運営は生徒たちに責任感と達成感をもたらすことができます。3年次での実習は1名の利用者を受け持ち、ICFの項目に基づく情報収集、アセスメント、生活課題の抽出、解決方法の立案、実践、評価までと介護過程の展開を行います。専門職としての役割を自覚することができ、主体的に、利用者中心のケアの必要性を考え、学び、著しく成長することができます。



### 各種取り組み

今年度・昨年度の実績から

#### 『校内介護技術コンテストおよび東北地区高校生介護技術コンテストへの参加』

東北大会への参加を目指し、校内にて介護技術コンテストを行いました。課題に向き合い、どのような介護が必要なのかを考え、また、評価し合うことで、互いの対人援助に対する考え方や介護技術を高め合うことができました。いままで学んだ知識と技術を統合して、様々な介護の場面において、適切かつ安全に支援できる力を身につけることができました。今年度は3年次生3名が東北大会に出場し、奨励賞を受賞しました。

#### 『わかやなぎ福祉のつどい』

栗原市若柳支部主催のわかやなぎ福祉のつどいに参加しました。ステージでは学校紹介やロコモ体操の発表、ふれあいコーナーでは栗原中央病院石田先生の指導のもと、ロコモ度チェックのブースを設け運営しました。地域の方々とのふれあうことで、栗原・若柳地域の高齢者の現状について理解が深まり、介護予防の必要性や地域における福祉を学ぶ高校生としての関わり方や役割を考える機会となりました。

#### 『みやぎ産業教育フェアへの参加』

訪れた方々へ、車椅子介助について説明をし、介助の実際を体験してもらいました。自分では分かっているつもりでも他者に伝えることの難しさに気づくことができ、相手に理解してもらうためのコミュニケーション能力の必要性についても学ぶことができました。



第4回 東北地区 高校生介護技術コンテスト



- 卓球部**  
男子学校対抗 優勝  
男子ダブルス 佐々木雄大 永遠  
男子シングルス 佐藤 永遠  
第一位 佐々木雄大  
第三位 佐藤 永遠  
女子学校対抗 優勝  
女子ダブルス 小野寺 楓  
第一位 小野寺 楓  
第二位 佐藤 和花  
第三位 岩松 穂香  
女子シングルス 千田紗璃亜  
第一位 田口 里佳  
第三位 千葉 花生  
女子シングルス 遊佐 汐里  
第一位 田口 里佳  
第三位 千葉 凜
- バドミントン部**  
男子シングルス 小野寺 祐貴  
女子学校対抗 優勝  
女子ダブルス 優勝  
第一位 田口 里佳  
第三位 千葉 花生  
女子シングルス 遊佐 汐里  
第一位 田口 里佳  
第三位 千葉 凜
- 柔道部**  
男子団体 優勝  
男子個人 第三位  
【軽量級】  
第二位 佐野 彩斗
- 剣道部**  
女子団体 優勝  
迫桜・築館・佐沼合同チーム

- 陸上競技部**  
男子 第三位 佐々木 陸十  
【中量級】  
第三位 遊佐 龍太  
ソフトテニス部(男子)  
男子団体 第二位  
男子個人(県大会出場権)  
芳賀 研也・眞山 陸 陸 陸  
千葉 諒汰・宝来 優輝 優輝 優輝  
千葉 尚輝・朝比奈 樹 樹 樹  
菅原 学・加藤 大和 大和 大和  
女子個人(県大会出場権)  
阿部 恵・阿部 幸奈 幸奈 幸奈
- 陸上競技部**  
男子 第一位 那須野 紘季  
第二位 岩嶋 一馬  
一〇〇MH  
第一位 岩嶋 一馬  
四〇〇MH  
第一位 秋葉 隆真  
第三位 秋葉 隆真  
走幅跳 菅原 拓斗  
第一位 菅原 拓斗  
三段跳 菅原 拓斗  
第一位 菅原 拓斗  
やり投げ 佐々木 歩  
第一位 佐々木 歩  
女子 一五〇〇M  
第二位 村上 凜  
三〇〇〇M  
第一位 村上 凜  
一〇〇MH  
第一位 菅原 千紘  
四〇〇MH  
第一位 高橋 冨佳
- サッカー部**  
第二位  
野球部 二回戦敗退  
バスケットボール部  
男子 第四位  
女子 第三位

- 陸上競技部**  
女子学校対抗第三位  
女子ダブルス 佐藤 穂・佐藤 和花  
女子シングルス 千田紗璃亜
- 陸上競技部**  
男子一〇〇Mハードル  
第三位 岩嶋 一馬  
やり投げ 佐々木 歩  
第四位 佐々木 歩  
女子 第二位
- 水泳部**  
男子二〇〇Mバタフライ  
第二位 佐々木 侑汰  
男子四〇〇M自由形  
第四位 佐々木 侑汰
- 美術部**  
最優秀賞・生徒推薦賞 五十嵐 南友  
優秀賞 小野寺 柊佳  
優良賞 佐々木 安奈  
生徒推薦賞 佐藤 亜海  
優秀賞・会員推薦賞 菅原 聡美  
会員推薦賞 三田 綾香
- 写真部**  
銀賞・生徒推薦賞 石川 舞雪  
銅賞 佐々木 優香  
銅賞 山内 舞雪  
銅賞 石川 舞雪  
銅賞 高橋 理乃  
銅賞 高橋 理乃  
銅賞 千田 樹璃



(東北大会出場)

(東北大会出場)

(東北大会出場)

平成29年度栗原登米支部総合文化祭

# 東北大会出場

活躍する迫桜生

**陸上部男子やり投げ**  
2年3組 佐々木 歩

県大会ではケガをするというアクシデントがありましたが、東北大会に出場することができて良かったです。新人戦、ユース、来年の高総体では、より良い結果を出せるよう頑張りたいと思います。

**卓球部女子 団体**  
3年2組 小野寺 楓

約2年間、インターハイを目標に活動してきました。目標は達成できませんでしたが、恵まれた環境で多くの方々から支えられて練習できた日々は、本当に貴重で楽しかったです。ありがとうございました。

**ホッケー部女子**  
3年5組 高橋 結奈

人数が少ない中、チーム一丸となり試合に挑むことができました。そして最後まで一人一人があきらめず、悔いの残らない試合ができました。本当に支えてくださった方々には感謝しかありません。ありがとうございました。

**陸上部男子110m ハードル**  
3年4組 岩嶋 一馬

初めての東北大会で、インターハイまで繋ぐことはできませんでした。これまで陸上を続けてこられたのは先生、友達、家族の支えがあったからだと思います。6年間陸上を続けてこられて、本当に楽しかったです。

**水泳部男子 200Mバタフライ**  
2年2組 佐々木 侑汰

東北大会では6位という結果でインターハイに行くことはできませんでした。この結果を糧にし、来年は東北大会で表彰台、そしてインターハイに行けるように頑張りたいです。



# 地域の声

— 迫桜を支える方々 —

## 何事にも興味を持ちましょう

めいぶる洋菓子店  
池田 聡

聡

私が若柳高校を卒業して早三十二年が経ちます。

卒業後すぐ、伯父の知り合いの仙台の洋菓子店で六年間修行したのち、地元に戻りながらお店を持つことが出来ました。小さいお店で十年間自分なりに努力し、お客様に支えられ迫桜高校近くに新店舗を移転オープンすることが出来ました。私は最初から洋菓子作りを目指していた訳ではなく、子供の頃から物作りが好きだったので、手作り出来る物であれば何でも良かったのですが、父が餅菓子屋を営んでおられて、毎日父の仕事ぶりを見ていたのもあって、自分も食べ物を作りたいと思う様になり洋菓子作りを選び、現在にいたっております。

今回迫桜高校の生徒さんにご縁がありコラボ商品を作りました。企画・構成・マーケティングすべて生徒さんで私はサポート役でした。



だが、限られた時間にも関わらず良い商品が出来たと思います。生徒さんも初めて本格的な洋菓子作りに興味津々で、とてもスムーズに進行したと思います。何をやるにしてもやらされるのではなく、自分から進んでこれやってみようと思うことが大事なので、今回体験した生徒さんが自分の目標に向かって進んで欲しいと思います。

## 地域との繋がりを大切に

若柳金成商工会  
会長 川嶋 保美



今年も迫桜高校一学年の生徒九名が職場体験に訪れました。商工会の業務内容について説明の後、職員が交代で講師役を務め、社会人としての「ビジネス実務マナー」や「暮らしと税金」の話、5W1Hで「要点をまとめて文書やチラシを作ってみる」実務体験なども取り入れながらの体験学習が将来の進路や職業選択に役立てば幸いです。

迫桜高校には商工会が行っている各種イベントにも協力をいただいております。本年四月に実施した「若柳桜まつり」では、生徒会長を「一日商工会長」として委嘱し、セレモニーでの挨拶をはじめ、出店者への激励や宮城県音楽隊への花束贈呈など、多岐にわたり活躍していただきました。また、八月に実施した「若柳夏まつり流灯花火大会」には、昨年に続き合唱部の皆さんが参加してくれました。夏らしく浴衣姿で素敵なコーラスの披露や、司会進行のお手伝いもしていただき、会場となった中町商店街も華やいだ雰囲気になりました。

さらに、昨年迫桜高校が取り組んだ「ICT化推進事業」では、地元事業所三社の「ホームページ」の作成や、ホームページを作成する過程で気づいた事業所の課題について、高校生の視点でアイデアを出し合うアイデアソンにより課題解決の提案を受け、事業所からも感謝の声が寄せられております。

迫桜高校の教育基本方針でもある「学校と家庭そして地域社会が一体となって生徒を育てるための開かれた学校づくり」への実践的な取り組みに対し、改めて敬意を表します。我々も「地域社会に貢献する商工会」として「地元の高校」との繋がりを大切にし、迫桜高校の活動とともに協働して「より良い地域づくり」を進めて参りたいと思います。

## 未来への可能性

(株)レジリエンス  
代表取締役 鈴木 真士

鈴木 真士



当社は平成二十六年に若柳川南にてデイサービス花つつみを開設し、現在、デイサービス二事業所、居宅介護支援事業所を運営しております。介護事業はもろろのこ、何らかの形で地域貢献できないか、地域との関わりを深めていくことができないか、様々な取り組みの中で商工会を通じ、迫桜高校の生徒さんとICT化推進事業や若柳夏まつりで関わりを持たせていただきました。

ICT化推進事業では二名の生徒さんに当社のホームページを作成していただき、少ない時間の中で真剣に取り組む姿勢には深く感心いたしました。また、若柳夏まつりでは合唱部の皆さんにイベント参加へご協力いただき、素敵な歌声でお祭りに華を添えていただきました。直接お話をした事がない生徒さんの中にも、当事業所前で職員や利用者様に会うと「こんにちは」と爽やかな挨拶をされる姿がみられ、本当に素晴らしい生徒さんが多数いることに感じしております。

高校生活の中で様々な人に出会い、学び、多くの経験をし、仲間と共に楽しむ、時には悩み、失敗することもありますが、どの様な経験も今後の人生において無駄になることは一つとしてありません。進学や就職で地元を離れる方もいると思いますが、今の気持ちを忘れずに経験を積んでいただきたいと思っております。そして、多くの皆さんが地域に戻り町づくりの中心となり素晴らしい未来をくりあげていただくことを願います。

## 安全な生活を送るために

若柳第一自動車学校  
総務課長 後藤 幸子

後藤 幸子

平成二十九年八月二十九日午前六時二分、家中のスマホやテレビから聞きなれない音がけたたましく鳴り、外からは防災無線放送。全国に向けて初めてのJアラートが発信された。北朝鮮からミサイル発射だ。「どこへ避難したらいいの。」「ミサイル落ちたら。」結局何もすることができず、テレビを見て座っていました。

原付講習会等交流があり、毎年「新規バイク通学者講習会」、「原付バイク技能講習会」約八十名から九十名の生徒さんにご来校頂いております。特に「新規バイク通学者講習会」は、原付免許を取得したばかりの生徒さんが通学許可前に行う講習で、コースを解放し少人数で開催されるため、基本的な日常点検から道路上の危険を予測した運転など、個々に指導を受けることができます。年間行事で忙しい中、迫桜高校の「安全」に対する取り組みと意識の高さに、私達も全力でお応えしたく、地域の安全運転センターとして今後その役割を果たして行く所存です。

中でも迫桜高校の皆さんとは、





